

ローカルtoローカル新・連携プロジェクトが本格始動！

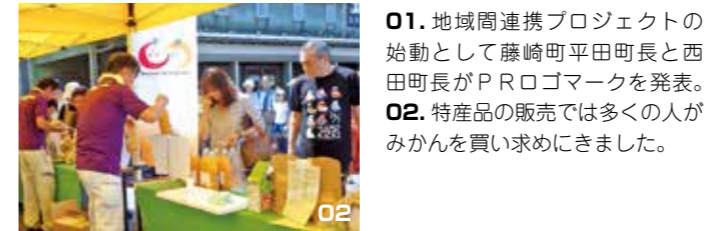
このような経緯から、紀宝町の柑橘と藤崎町のりんごなどをマッチングさせ、地域資源を最大限に活用する地域間連携「ローカルtoローカル新・連携プロジェクト」が両町長によるトップセールスにより本格的に始動しました。

本年8月4日、紀宝町長ほか職員8名は、青森県藤崎町を訪れ、藤崎町役場でこれまで連携の検討や意見交換などを積み重ねてきた結果として、PRロゴマークの発表、今後の活動予定の確認などを行いました。

藤崎町の平田町長は、「地域連携の取り組みを通して、地元農家の収入を上げるなど、両町が活力あるふるさとになるよう、英知を結集して取り組んでいきたい。」と話し、西田町長は、「それぞれの地域の歴史や風土などを尊重しながら、互いの足りないところ

を協議し、補い合うことで両町の親交を深めていければと思う」と積極的に意見を交わしました。

翌日の5日には、藤崎町の農産物直売施設「食彩ときわ館」で、ハウスみかん500キログラムをはじめとした特産品などを販売し、約1時間で完売するなど、大変な好評ぶりでした。



01. 地域間連携プロジェクトの始動として藤崎町平田町長と西田町長がPRロゴマークを発表。
02. 特産品の販売では多くの方がみかんを買い求めにきました。

ローカル同士の交流で広がる新たな可能性

気候や風土が異なる2つの産地で採れた作物を組み合わせて、これまでにない、新しい商品を生み出すため、紀宝町の特産品である柑橘と藤崎町の特産品を掛け合わせ、試行錯誤しながら、さまざまなメニューの開発に取り掛かっています。

また、10月には食彩ときわ館のリニューアルオープンに向け、道の駅紀宝町ウミガメ公園に藤崎町の職員が研修のため派遣されるほか、みなとフェスティバルで藤崎町の物産販売ブースが出版されます。11月には紀宝町の生産者等が藤崎町を訪れ、地域間連携の物産販売および商品開発に向けた協議を実施する予定となっています。

今後もこうした交流を進めていくことにより、お互いの地域の活性化、他分野での新しい交流、新しい文化、新しい価値観の創出など、多くの可能性が広がっていく、たわなに実るプロジェクトとなっていくことが期待されています。

両町の特産品を使ってこれまでに試作したメニュー



みかんとたまごのブラウニー

マイヤーレモンとりんごのジャムのヨーグルトドリンク

マイヤーレモンとりんごのチキンカレー

豆乳ゼリーみかんソースがけ

マイヤーレモンとりんごのジャム

マイヤーレモンとりんごのドレッシング



ひろさきふじ
「ひろさきふじ」は「ふじ」の枝変わり種で、昭和59年に青森県弘前市のりんご園で発見された品種です。9月下旬に収穫期を迎え、「早生ふじ」の代表品種とされます。果皮は濃い赤色で、形は「ふじ」よりも少し丸みがあり、サイズは300～350gほど。果肉はジューシーで「ふじ」と比べてやや柔らかく、糖度が上がりやすいため酸味は穏やかです。



とき
「とき」は、「王林」と「ふじ」の交配種であるといわれ、果皮は黄色～薄い黄緑色で、太陽に当たっていた部分がうっすらと赤色になっています。サイズは300～350gほど。果肉はジューシーで、「ふじ」と比べて緻密であり、強い甘みの中にやさしい酸味があり、しゃきしゃきとした歯触りです。香りは「王林」に似て、爽やかな芳香です。

みなとフェスティバルに藤崎町のブースが登場！

交流の1つとして、10月15日に開催する紀宝みなとフェスティバルに藤崎町の物産販売ブースが登場します。シュージーで酸味の少ない「ひろさきふじ」や、黄色い姿が印象的な、しゃきしゃき

とした歯触りで強い甘みの中にやさしい酸味が広がる「とき」といった藤崎町直送のりんごが1個100円で販売される予定です。ぜひ匂い盛りの産地直送のおいしいりんごを食べてみてください。



ロゴマークのコンセプト
「異なる町が交わって、真新しい、新しい文化が生まれる様子をイメージ。りんごとみかんがリングのようにがっちり手を組み、無限大の交流が始まっていくという想いが込められています。」